

平成27年度 燕市・西蒲原郡社会科部 活動報告

部長 岡崎 登

1 研究主題

社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成
～資料からどのようにして、何を読み取らせるか～

2 研究の概要

研究主題のねらいに迫るために、主に下の2点についての研修を計画・実施した。

- (1) 部員一人ひとりの見識を深めるための地域巡検
- (2) 研究授業と協議会を通じた学習指導法の検討

地域巡検は、燕市内の教材開発と、それをもとに部員の社会的な見方・考え方を深める機会として設定した。いくつか候補が挙がる中、最も部員の興味を引いたものが「JR東日本」であった。

学習指導法の検討は、分水北小学校で研究授業と協議会を実施することを通して行うことにした。研究授業と協議会を通して研究主題に迫る手立てを明らかにするのがねらいである。

3 研究の実際

- (1) 部員一人ひとりの見識を深めるための地域巡検

6月3日にJR東日本燕三条駅にて見学活動を行った。駅職員の方から構内を案内していただいたり、質問に答えていただいたりした。この活動を通して、よりよいサービスの提供するための努力と工夫を強く感じた。働く人の思いに触れることが社会的な見方・考え方を追求する上ではなくてはならないものであると再認識した。



- (2) 研究授業と協議会を通じた学習指導法の検討

12月2日に分水北小学校にて研究授業と協議会を行った。単元は4年生社会「大河津分水と人々の暮らし」である。

映像、グラフ、写真など、どの資料も授業者の佐藤先生が精選したものであり、児童は学習課題について興味深く、真剣に考えている様子であった。また、後半には大河津分水と地域にある「客土の丘」の関連に触れるなど、昔と現在とを結びつける工夫があった。



協議会の指導の中で、資料選びと提示のポイントや事象だけでなく「人」に目を向けさせることなど、研究主題に迫る手立てを部員が共通理解することができた。

4 成果と課題

研修を通して明らかになったことは、そこに働く・従事した「人の思い」を取り上げることが社会的な見方・考え方を深める上で有効であるということである。「人の思い」を大切にした社会科の学習を今後も進めていく必要がある。